

箏
三
絃
尺
八

札幌

三曲協 會

創
立
七
十
周
年
記
念
演
奏
會

2013年 6月23日(日)

開場 12:30 開演 13:00

札幌市教育文化會館
大ホール



芸術文化振興基金助成事業

主 催 / 札幌三曲協会 後 援 / 北海道・札幌市・札幌市教育委員会・北海道新聞社

札幌三曲協会

創立七十周年記念演奏会



ごあいさつ

札幌三曲協会会長

長根 雅楽悠美

本日はお忙しい中ご来場賜りまして誠に有難う御座います。

札幌は今、新緑の季節を迎え、自然は勿論のこと人々も一年中で一番勢いのある清々しい時期になりました。

当協会もそんな札幌の街にふさわしく、目出度くも創立 70 周年の記念すべき節目を迎える事ができました。顧みますと昭和 18 年という戦況厳しい中での協会設立で、当時の役員の方々のご苦勞を想う時、胸が熱くなると同時に、御恩に報いるためにも後世に残る何かをしなくてはとの思いに駆られます。

この度は人間国宝で尺八演奏家の山本邦山先生に、札幌の四季を題材にした「北の四季」という曲を作って頂きました。先生の指揮で初演できます事、会員一同この上ない幸せと感じています。

これを機に会員一丸となって 80 周年に向け、新たなスタートを切る所存でございます。今後とも皆様方の温かいご指導ご支援を賜ります様、紙面をお借りしましてお願い申し上げます。

最後になりましたが今回の記念演奏会開催に当たりまして、助成して下さいました独立行政法人 日本芸術文化振興会を始め、ご協力頂きました北海道・札幌市など関係機関の方々に心からお礼申し上げますと共に、二年間にわたりご指導くださり、曲を書いて下さいました山本邦山先生に感謝の気持ちを捧げご挨拶とさせていただきます。

平成 25 年 6 月 23 日



お祝いのことば

札幌市長

上田 文雄

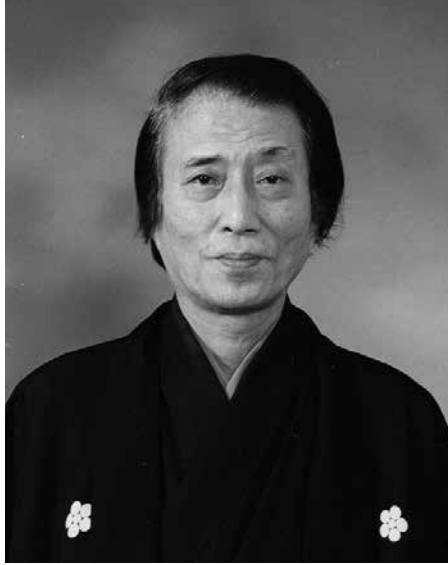
このたびは、札幌三曲協会が今年で70周年を迎えられ、その記念として、本日の「創立70周年記念演奏会」が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

札幌三曲協会は箏、三絃、尺八奏者の相互交流と技術の向上を図り、三曲の普及振興に貢献することを目的として設立されました。そのご活動は、各種演奏会の開催や学校での邦楽体験授業の実施など多岐にわたり、70年もの長さにおいて、日本の素晴らしい伝統文化を次代に伝えることにご尽力いただいております。

日本人の心に沁みわたる三曲の音色は、長い歴史によって培われた日本固有の美の創造物であり、多くの人々に愛されております。私は、日本の伝統文化振興に対し精力的に取り組まれている札幌三曲協会の顧問であることを大変誇りに思うとともに、札幌三曲協会の皆様に対し深く感謝と敬意を表します。

本日の演奏会では、人間国宝の山本邦山先生をお迎えし、札幌の四季をテーマに作曲された記念曲「北の四季」が初演されると伺っております。札幌独自の新しい邦楽の世界を感じられる素晴らしい演奏会になりますことをご期待申し上げますとともに、今後とも、本市の文化振興にお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

むすびに、札幌三曲協会及び関係者の皆様の今後ますますのご発展とご活躍を祈念いたしまして、お祝いのことばとさせていただきます。



お祝いのことば

人間国宝・尺八演奏家

山本 邦山

「札幌三曲協会創立 70 周年記念演奏会」が、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

札幌三曲協会におかれましては、永きにわたり、北海道における、箏・三絃・尺八といった「三曲」の啓蒙普及活動をはじめ、技量の向上や若い世代への伝統文化の継承に尽力されていることに対し、深く敬意を表します。

また、昭和 18 年の創立以来 70 周年の節目を迎えた貴会が、これまで果たしてきた役割には誠に大きなものがあり、皆様のご努力に改めて感服いたします。

北海道は私にとって、とりわけ縁の深い土地で、親類や縁者も多く在住しており、札幌だけでなく道内各地に足を運ぶ機会がございました。季節ごとに見られる風景のすばらしさは来訪の度、私に強い印象を与えてくれました。その時の想いが、今回委嘱初演となります自作曲「北の四季」に込められております。

この記念すべき節目の演奏会に、この曲を自身の指揮、札幌三曲協会の方々の演奏で、ご披露できますことは、誠に光栄なことと感じております。

私自身、昨年に音楽生活 65 周年の節目を迎え、また新たな気持ちで一歩を踏み出したところがございます。この記念演奏会が、札幌三曲協会にとってこれまで以上の発展への新たな一歩となるよう願ってやみません。

本日の演奏会の御盛会とお集まりの皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ、お祝いと感謝のことばとします。

山本邦山

音楽生活65年の歩み

- 1946年 中西蝶山師に師事
- 1958年 京都外国語大学英文科卒業。都山流第1回師範検定試験合格。
- 1956年 第1回尺八リサイタル(滋賀会館大ホール)
- 1962年 正派音楽院楽理科卒業。尺八二重奏曲「竹」、東京新聞社主催・邦楽コンクール作曲部門第1位。
NHK優秀賞、日本三曲協会賞受賞。
- 1966年 尺八三本会結成(青木鈴慕、横山勝也)
- 1969年 第2回尺八リサイタル、レコード「尺八1969」(尺八三本会)、芸術祭優秀賞受賞。
- 1973年 第5回尺八リサイタル、芸術祭優秀賞受賞。東京ヴィヴァルディ合奏団とヨーロッパ18都市公演。
- 1975年 昭和49年度芸術選奨文部大臣賞受賞。外務省派遣によりアスパック音楽院(ソウル)に参加。
- 1977年 東京藝術大学非常勤講師に就任。NHK委嘱「二本の尺八と合唱の為の『韻』」、芸術祭優秀賞受賞。
- 1979年 第10回リサイタルにおいて、フルート奏者ジャン・ピエール・ランバルと共演。
映画「悪魔が来りて笛を吹く」の音楽担当。都山流より楽士号授与。
- 1981年 現代邦楽作曲家連盟事務局長に就任。
- 1982年 昭和57年度都山流都山賞及び功労賞を受賞。
- 1985年 TBSドラマ「はらはらと雪月花」の音楽担当。映画「オイディプスの刃」の音楽担当。
ジャズピアノ奏者の山下洋輔とドイツ他ヨーロッパ8都市公演。
- 1987年 コロムビアレコード「宙CHU-山本邦山 尺八・2001」、昭和61年度文化庁芸術作品賞受賞。
- 1989年 開軒35周年記念演奏会(於:都市センターホール)
- 1991年 モービル音楽賞受賞(尺八三本会)
- 1993年 東西アジア音楽祭(パリ)に、ヘレン・メリル、佐藤充彦らと参加。
- 1996年 東京藝術大学音楽学部教授に就任。
- 1997年 大津市特別文化賞受賞。
- 1999年 東京藝術大学音楽学部教授に就任。
- 2000年 出版芸術社より「尺八演奏論」出版。第25回滋賀県文化賞受賞。
- 2002年 重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定。公益財団法人都山流尺八楽会専務理事に就任。
- 2004年 紫綬褒章受賞。山本邦山尺八合奏団結成。
- 2005年 東京藝術大学名誉教授に認定。
- 2009年 旭日小綬章を受賞。都山流永年継続開軒55年表彰。
- 2012年 恩賜賞・日本芸術院賞を受賞、日中国交正常化40年記念式典開会式(北京)にて祝賀演奏。
京劇ホールにて日中交流コンサートに出演。
- 現在 公益社団法人都山流尺八楽会専務理事、公益社団法人日本三曲協会副会長、滋賀県三曲協会会長、
現代邦楽作曲家連盟事務局長、都山流尺八邦山会主宰、東京藝術大学名誉教授。

一・合奏曲六段

藤井凡大作曲

箏低音	芙蓉会	平井 司	船越 優子	斉藤 秀世				
	萌の会	石山 律子	牧野 恵美	治部 眞佐子				
	澄音会	永井 良子						
	樹の会	玉村 百合子						
	若菜会	柴田 雅寿	長井 雅楽亜鶴	本間 雅祥	加藤 雅楽悠			
		木村 雅楽寿方	澤登 雅楽寿瑛	竹田 雅楽亜紀	松岡 雅楽葛悠			
		安藤 雅楽美智	斉藤 都福豊					
	賀寿美会	斉藤 悦芳井	古崎 寿華井	柳澤 泉寿井	平原 絲井			
		長田 浩然井	蒲沢 千恵子	黒田 葉子	北 紫代井			
		弥代井会	足利 美幸勢	鈴木 壽恵井				
箏高音	絃寿会	坂倉 啓子						
	萌の会	更科 紀子						
	樹の会	小椋 征子	大島 みづき					
	若菜会	長根 雅楽悠美	鈴木 雅楽裕	山口 雅楽楓葉	続 雅楽久寿			
		橋元 雅楽秀	長谷川 雅楽雅	村本 雅楽美麗	石塚 雅楽寿厚			
		楠見 雅楽信	久保 雅楽史瑞	杉谷 雅智恵	宮下 雅楽信悠			
		瀬山 雅楽陽悠	洞野 雅楽佳	米谷 雅楽空美	平山 雅楽裕啓			
	三 絃	若菜会	山上 雅楽佳	按田 雅楽弥栄	大塚 雅楽寿鳳	沖垣 雅楽久美		
		米田 雅楽範	加藤 雅幽	高橋 雅楽美智	片桐 雅楽律			
		富田 雅楽寿枝	朝日 雅楽佳峰	富田 雅楽順	穴田 雅楽郁美			
	鳥居 雅楽光	板谷 雅楽泰寿	坪田 雅楽雪	時国 雅楽寿恵				
	高橋 雅楽儷	増田 雅楽薫	渋谷 雅悠紗	山崎 雅薫				
	虎尾 雅聖	久保 雅楽寿路	近江 雅楽和寿	道下 雅楽知				
	中西 雅楽明希	飯村 雅楽美悠	柴田 雅楽渚	森 雅千映				
	高木 雅楽淑悠	徳光 雅楽悠佳	金田 雅楽修悠					
十七絃	芙蓉会	三宅 百代						
	萌の会	永井 幸子	木田 敦子					
	樹の会	山下 仁子						
	若菜会	畑山 雅楽智都	千葉 雅楽千華	田中 雅楽幸悠	片岡 雅楽晴			
	賀寿美会	菅野 寿井						
尺 八	仁の会	岡 宏作	高田 明人	木村 七郎	成澤 正幸			
		田中 治男	中澤 雅樹	中野 長三郎				
	都山楽会	小山田 忽山	田中 汎山					
	美登里会	大萱生 幽憧	亀岡 幻憧	関口 葉憧	伊藤 精憧			

【解説】

箏曲は「六段」に始まって「六段」に終わると言われ、古今を通じての名曲中の名曲であり、しかも、およそ中級以上の奏者でこの曲を弾かぬ者はない程平易でポピュラーでありながら、弾けば弾く程深みを増してくる不思議な魅力に満ちた、いわば箏曲の代表曲である。

私自身幼い頃から今に至るまで、そして将来も強い愛着を持ち続けるであろうこの曲を、これまでも合奏や合唱など様々な形に書き、振り、時には弾きもして上演し、放送し、レコードにもして来たが、昭和53年2月、国立劇場で開かれた「箏曲の伝統を守る会」の為に改めて大編成に書き、四百人を超えるメンバーで初演し、その後も数多くの上演の機会に恵まれたものがこの曲である。
(作曲家)

二松竹梅

箏	栄豊会	木村 峰薫	松岡 翠薫	安田 季陽薫	
	賀寿美会	広瀬 志寿井	今村 政寿井	大澤 美井	安達 代寿井
		本田 祥寿井	大鎌 澄寿井	本間 千恵井	橋本 栄井
	琴友会	加賀 豊昌恵	松谷 豊薫	諏訪 豊江	金丸 豊絃
		小山 豊洲嶺	田中 豊恭恵	山本 豊恭和	横田 豊千加
		石川 豊文加	石谷 豊妙加	黒山 豊郁邦	美野 豊恵枝
		安達 豊由枝	三浦 豊晶枝		
	佐登美会	原嶋 登百代	竹内 佐登和	大古 登和希	
	中能島会	笹尾 津恵能	奥山 珠能	須藤 秀津能	
	弥代井会	煙山 弥那井	安井 弥保井		

三 絃	絃寿会	佐藤 武吟	辻谷 武喜代		
	樹の会	山下 美代	木下 良子	寺下 ひとみ	浅井 優子
		太田 淳子			
	若菜会	柴田 雅寿	加藤 雅楽豊華	石川 雅楽紈	友成 雅楽久
		佐藤 雅則	藤原 雅楽寿穂	奥山 雅楽綾加	
	賀寿美会	橋本 賀寿井	田澤 雅井		
	琴友会	大畑 豊梢	門田 豊純	日向 豊都	鈴木 豊絃
		伊藤 豊雅以	野口 豊美香		
	新樹会	榎 寿奈井	白佐 裕喜井	佐藤 佐和井	
	弥代井会	吉野 真寿井			

尺 八	閑月会	高崎 逸風	吉田 逸頌	高崎 逸林
	竹友会	武田 逸道	馬場 雅道	中村 胡道
	鈴慕会	安達 鈴王	見延 鈴鳴	星 鈴雪

【解説】

おめでたい時に演奏するご祝儀物の代表作である。歌に気品があり、梅に鶯、松に鶴、竹に月を配し、めでたい歌詞に巣籠り地をつけて、賑やかに演奏できる事から、曲全体が明るい感じを与える。

曲は前唄から長い合いの手を経て中唄に入り、マクラの後に三段にわたる長い手事が続き、最後は後唄で終る手事物の典型的な形式を取っている。

三津橋勾当作曲

三管絃章節

山本邦山作曲

指揮		山本 邦山						
箏 I	楽風会	小田 弘雅	南雲 秀叡	江幡 雅正	安岡 瀨啓			
	萌の会	山田 悦萌						
	ゆきの会	黒川 かおり	桜 一枝	前田 弘美	栗中 美恵子			
	樹の会	廣瀬 弥生	手嶋 方美	植田 香				
	若菜会	松村 真紀子	最上 雅寿	加藤 雅豊	岡崎 雅鳳			
	弥代井会	山本 雅祢佳	石井 雅潤	平間 雅弓	野口 雅菜緒			
箏 II	楽風会	上村 雅楽絵	荘司 那緒井	牧野 鳳寿井				
	萌の会	羽山 弥智井	丸岡 雅裕	木村 弘瑛	三ツ井 雅紡			
	ゆきの会	泉田 秀鴻	羽田 香葉	神 雅桂				
	澄音会	古舘 叡韻	橋本 桂代子					
	樹の会	阿部 尚子	土谷 詢子	中村 貴恵				
	若菜会	大塚 里実						
	三絃 A	長谷川 秀子	関谷 祥子	松尾 雅彰	宮坂 雅星			
	楽風会	長岡 美和子	宮野 雅代	篁 雅楽啓	佐藤 都和葵			
	芙蓉会	高野 雅慶	島谷 雅阿輝	皆川 都栄君	清水 都和香			
	ゆきの会	河上 雅楽史	杉浦 都知有					
	澄音会	小野 都久弥						
	樹の会	金澤 秀香	荒井 多恵子					
	若菜会	大谷 洋子	坂井 幸子					
三絃 B	楽風会	笠井 利恵子	田村 雅久					
	ゆきの会	横川 喜美子						
	若菜会	清水 照美	竹井 由起子					
三絃 C	琴友会	及川 雅春	竹内 雅楽津緒	対馬 雅楽馥優	柴田 雅裕賀			
	楽風会	渡辺 弘悦	日向 豊都	門田 豊純	伊藤 豊雅以			
	萌の会	鷺尾 法子						
	ゆきの会	柴田 雅寿	田中 雅晃					
	澄音会	大畑 豊梢						
	樹の会	三浦 豊晶枝						
	若菜会	小田 雅浩						
尺八 I	仁の会	石山 しおり	定久 恵子					
	都山楽会	宮澤 康子						
尺八 II	仁の会	矢沢 美和						
	新都山	堤 隆子						
	都山楽会	寺倉 雅萌						
	都山楽会	菅原 久仁義	加藤 健	設楽 和恵				
		大道 蕉山	古椎 豊山	向平 酔山				
		寺倉 直明	見澤 太基	小西 美紀				
		中島 聖山	遊座 芳山	米田 統山				
		太田 照山	宮野 積山	田村 信山				

【解説】

この作品は複数の弦楽器と管楽器により構成されており楽章としての段落を持たず、全体の流れにおいて句読点を有しているところから「管絃章節」と名付けている。

規則的な形式にとらわれず、豊かな多様性を持つ各々の楽器が常に縦と横との軸を意識し共鳴させながら必然的な音の区切りによる音楽要素の発展性を目指している。日本の風土の中で育まれて来た尺八と箏・三絃、琵琶との融合により可能性を深める新しい音の響きは演奏上の演出によって無限の広がりを持たせる事も出来ると思う。(作曲家)

四・尺八二重奏曲「虹」

山本邦山
作曲

尺八Ⅰ	新都山	山下 洌山	簀谷 宗山	山下 静山	吉本 啄山
		千川 迪山	森田 楼山	増井 黎山	原田 照山
		岡崎 札山	中山 兜山	丸田 聖穩	井上 聖白
		市場谷 楼宝			
	都山楽会	日小田 衡山	堀江 瑤山	近江 慧山	阿部 瀨山
	後藤 双山	照元 漠山	清水 凌山	岩谷 遊山	
	三浦 絹山				
仁の会	山中 詔市	上野 岳史			
尺八Ⅱ	新都山	永尾 玲山	友成 貢山	横川 粹山	加藤 仙山
		荒川 慎山	岡田 俊山	村本 芳信山	木下 芳嬉山
		樋泉 皇山	浜上 芳勝	松井 芳英	
	都山楽会	金子 繡山	中島 宏山	北条 慧山	兼平 隼山
		奥野 禎山	関口 讚山	深瀬 佐久山	河合 繡藍
	千葉 崩隆				
仁の会	芳賀 浩	工藤 孝史			

【解説】

尺八二重奏曲として、六番目の作品である。故郷に帰ると、そっと心を静めるために三井寺を訪ねる事が習慣となった。幼い頃遊んだこの寺の境内からはよく虹が見えたものである。年月が流れても風景は変わらず、ここに来ると童心にもどるようだ。その頃の私はパロック音楽、特にバッハやヴィヴァルディの旋律が好きで、フルートを奏したものである。この曲にもそうしたメロディーを取り入れ、全体的には陰旋・陽旋的に表現した。音の跳躍、順次進行を随所に組み合わせ、虹のように七色の美しさを表現した。

五桐韻

山本邦山作曲

箏ⅠA	絃寿会 藤の会	齊藤 武幾久 村林 満詠 高橋 洋子	楠 久佐枝 杉本 光子	平松 晶美	菅原 幸子
	芙蓉会 芳游会 ゆきの会 樹の会	福本 充子 高木 江美子 梅宮 恵里 祐川 祐子	山村 明子 田中 留美	土橋 富美子 横浜 慶子	長谷川 智子
	若菜会 新樹会 藤の会	大久保雅楽織美 珍田 芙喜井 阿部 玲子	宮崎 雅楽悦美 金兵 和香井 山川 眞智子	江沢 喜実井 富岡 悦子	谷口 梅悦井 鈴木 由香里
箏ⅠB		柴田 三香 遊佐 加津代	大平 節子 西谷 雅楽葉	富永 沙樹 松下 雅楽影	高橋 幸子
	芳游会 若菜会 新樹会	石川 雅智都 弘中 芙滋井	佐々木 緋芙井	柿澤 喜千井	
箏ⅡA	絃寿会 菊絃会 絃声会 藤の会	舟生 武美恵 菊絃 悠美枝 高橋 奈估 米田 哲子	丹野 桂子 北澤 光成賀 山崎 洋子	清水 茂子 山脇 信江	荒内 朋子
	芙蓉会 ゆきの会 樹の会 若菜会 新樹会	田中 貴世子 手塚 早苗 梅村 美幸 中家 雅楽公美	麓 さや子 水田 雅楽峰 鈴木 梅峯井		
	新樹会 絃寿会 菊絃会 藤の会	辻 久梅井 小野 武由喜 菊絃美 公子 安田 瑤子	菊絃静 悠純 岩崎 登美江	菊絃花 知誉 高荷 操	村山 陽子
	芙蓉会 若菜会	笠原 房子 三浦 光子 山本 雅祢佳	坂本 雅楽裕志 佐々木雅楽寿暉	高杉 雅楽雪鶴	竹田 雅楽亜緯
	新樹会 十七絃A	多田 美佐井 高塚 めぐみ	堂前 喜絵井 藤井 美希		
	ゆきの会 樹の会 若菜会	秋山 小枝里 亭 卿子 上野 雅楽裕	本間 雅楽豊	竹浪 雅楽裕真	
十七絃B	藤の会 若菜会	佐々木 彩乃 飯村 雅楽悠絵	牧之瀬 奈美子		

【解説】

箏と十七弦の六部合奏によって、楽器としての“箏”の持味を様々な角度から引き出すことを意図し音を綴った作品です。全曲を通じ陰旋音階を使用し、その手法も古来のものを基本にしてありますが、すくい爪やグリサンドの技法、低音から高音までの音域を広げる事に留意し、リズムにも変化をこらしてあります。

この曲を作曲した当時は、いわゆる現代邦楽が一時の頂点を迎えた時期で、邦楽畑の作曲家の活躍は大変に目覚ましいものでした。そんな流れの中で私も明快に動く、新しい感覚の曲に仕上がるよう心がけた作品のひとつです。曲は三楽章に分かれております。シンコペーションのリズムを土台とした軽快で力強い第一章。ピッチカートを用いてのどかなさまを表わす第二章。十七弦の掛合いに始まり、安定したテンポを作り出した後に合奏となり、最後に第一章の冒頭に用いた雄大なテーマが再現して曲はしめくります。

1965年5月、東京文化会館で行なわれた正派初代家元、中島雅楽之都先生の記念祝賀演奏会において、今回のレコードと同じく私の指揮で初演しました。私自身の心の中では、家元先生に捧げる曲として書き上げた作品でした。

六尺八独奏曲
静寂
「祈り」

山本邦山
作曲

尺八独奏

山本 邦山

<人間国宝>

【解説】

若い頃、まだ正月が過ぎて間もない寒い日、京都苔寺を訪れた時に小雪が舞いだした。それは見る見るうちに激しい雪へと変わっていき、静けさの中でかすかに聞こえてくる雪音はとても印象的である。

一昨年、東日本大震災において多くの尊い命が奪われたが、激震のあとの今はまさに静寂であり、ひっそりしている。

「静寂」はI番からIV番まで作曲してきたが、今回は平和を願い、また震災に遭われた方に祈りを捧げたく副題として「祈り」とつけた。

七. 委嘱作品 北の四季

山本邦山
作曲

第1 箏	絃寿会	齊藤 武幾久	
	楽風会	小田 弘雅	
	菊絃会	菊絃 悠美枝	
	藤の会	米田 哲子	
	芙蓉会	田中 貴世子	
	ゆきの会	竹井 由起子	
	澄音会	長谷川 秀子	
	若菜会	長根 雅楽悠美	
	賀寿美会	広瀬 志寿井	
	琴友会	大畑 豊梢	田中 豊恭恵
	佐登美会	原嶋 登百代	
	新樹会	珍田 芙喜井	
	中能島会	笹尾 津恵能	
	弥代井会	煙山 弥那井	
第2 箏	楽風会	金澤 秀香	
	菊絃会	菊絃 美公子	
	絃声会	高橋 奈估	
	藤の会	村林 満詠	阿部 玲子
	芳游会	遊佐 加津代	高木 江美子
	若菜会	朝日 雅楽佳峰	
	賀寿美会	田沢 雅井	
	琴友会	加賀 豊昌恵	門田 豊純
	佐登美会	竹内 佐登和	
	新樹会	佐藤 佐和井	
	弥代井会	羽山 弥智井	安井 弥保井

三 絃	芙蓉会	大谷 洋子			
	ゆきの会	梅宮 恵里			
	樹の会	清水 照美			
	若菜会	山上 雅楽佳	按田 雅楽弥栄	片桐 雅楽律	
	琴友会	日向 豊都			
	新樹会	辻 久梅井			
十七絃	萌の会	石山 しおり			
	樹の会	堤 隆子			
	若菜会	高橋 雅楽美智			
	賀寿美会	菅野 寿井			
	琴友会	松谷 豊薫			
尺八 I	閑月会	高崎 逸風			
	竹友会	馬場 雅輔			
	仁の会	菅原 久仁義			
	新都山	中島 聖山	横川 粹山		
	都山楽会	大道 蕉山	金子 繡山	日小田 衡山	田中 汎山
尺八 II	竹友会	武田 逸道			
	鈴慕会	星 鈴雪			
	仁の会	芳賀 浩			
	新都山	遊座 芳山	山下 静山		
	都山楽会	近江 彗山			
	美登里会	亀岡 幻憧	関口 葉憧		

【解説】

私自身の音楽生活 65 周年の区切りを迎えたのちに委嘱され、原点に立ち返り全く新たな気持ちで取り組んだ作品。
私の中で北海道は第二の故郷といえるほど、これまでに数知れず北海道を訪れた時のイメージがベースとなっている。大合奏曲としては 11 曲目となる本作は、それまであった山本邦山節的なものが変化している事に、札幌での合奏練習時に気付かされた。新たな気持ちへの意識がそのような形となったのかもしれない。

冒頭の尺八ソロから始まり、箏も加わってのテーマへと展開するくだりからは、ドラマのような、起・承・転・結を意識している。これは大ファンだった TV ドラマ「北の国から」の影響が少なからずあるのかも知れない。

和楽器の修理承ります。お気軽にお電話でどうぞ。・・・



〒003-0011 札幌市白石区中央1条6丁目12-9-1
TEL&FAX/011-864-3498 / 011-864-3548 営業時間 10時～17時 火曜日定休

邦楽<琴・三絃の店>

川村楽器店

〒064-0944 札幌市中央区円山西町7-1-3 TEL 011-221-4970 FAX011-643-2737
営業時間 午前10時～午後7時 / 月曜日定休日 各種カード・川村ローンをご利用ください。

琴
三味線

札幌 菊屋楽器店

〒0001-0033 札幌市北区北33条西7丁目2番1-820
TEL 011-758-4970
FAX 011-709-4840

邦楽邦舞の店

(株)キリヤ楽器店

TEL・FAX011-823-6164

〒062-0933 札幌市豊平区平岸3条15丁目2-20 地下鉄南平岸下車
■各種クレジットカード御利用ください。



〒064-0924 札幌市中央区南24条西14丁目2-18
TEL / FAX 011-561-4152

箏・三絃修理調整

佐藤楽器店

TEL 011-376-4404

〒061-1268 北広島市輪厚中央4丁目2-5

北海道を奏でる遠TONE音

遠TONE音の音創りに参加しています

6月6日は邦楽の日

〒005-0006

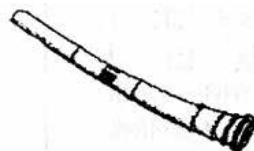
札幌市南区澄川6条7丁目4-19

TEL 011-584-2225 FAX 011-584-2238

e-mail: so-ul.yoshizaki@nifty.com

吉崎楽器店

<http://homepage2.nifty.com/2225/>



都山流尺八
琴古流

双丈銘尺八製作

師範後藤双山

〒061-1433 恵庭市北柏木町1丁目11-5 電話 0123-33-6511



尺八 製作・販売・修理

中西尺八工房

〒006-0032 札幌市手稲区稲穂2条7丁目10-12 TEL (011) 681-2818

J.R.『星置駅』下車南口から徒歩2分

E-mail: nanafusi@chive.ocn.ne.jp URL: <http://www1.ocn.ne.jp/~nanafusi/>

尺八製作・販売・修理

尺歌口タイ®・ブローチ・帯び留



小樽 Bamboo

ハンドクラフト工房

原田 良一 (照山)

〒047-0261 小樽市銭函1丁目3-17 TEL/FAX: 0134-62-2714

http://www7b.biglobe.ne.jp/~otaru_bamboo

e-mail: otaru_bamboo@ktd.biglobe.ne.jp

教授者必携
「入門者用指導教材」

……音出しから楽曲の吹奏まで……

高校・大学までの指導経験をもとに、そのエキスを簡潔にまとめた入門者用テキストです。



「尺八で歌う 想い出の愛唱歌 I」

尺八吹奏教材、慰問演奏会等の尺八楽譜として、だれでも知っている愛唱歌、二重奏40曲・他40曲の計80曲を収録しています。

【取扱店】

和楽器

上野楽器店

〒003-0011 札幌市白石区中央1条6丁目12-9-1

TEL&FAX (011) 864-3498・(011) 864-3548

営業時間 10時～17時 火曜日定休

札幌三曲協会事務局

TEL011-764-2328 FAX011-764-2348

〒001-0931

札幌市北区新川西1条6丁目2-17 中島聖山方



箏・三絃・尺八
札幌三曲協会